

自主活動

自主活動とはその名の通り、参加青年が自主的に開催できる活動です。参加も主催も自由で、この機会をうまく使って、吸収・発信している青年も多くいました。普段の会話がきっかけとなり、外国参加青年とタッグを組んで、セミナーを開くケースもあるなど、どれも魅力的で有意義な時間です。

水引ワークショップ



私は、船内で水引のワークショップを行いました。ふとしたきっかけで始めた自主活動でしたが、とても充実したものになりました。

まず、活動を通して支えてくれた4人の存在が大きかったです。今まで主催者という立ち位置についていたことがない私が、計3回のワークショップをやり切れたのは、彼女達のおかげです。場所取りや告知、作るもの

のデザイン、ワークショップの流れなどを手探りの中、考えていきました。この時に、必ず前回のワークショップを踏まえた改善策を出していったため、3回全て違った形式で行われたかと思えます。1人ではなく、5人で協力したからこそ、成長するワークショップが開催できたのかなと思います。

田中 紫穂



和太鼓教室



日本参加青年からは柔道や剣道、水引など、外国参加青年からはコーヒーやお茶の試飲会など、その国の文化が感じられる様々な催しが行われました。その中で、私はナショナル・プレゼンテーションのために結成した和太鼓チームで主催した和太鼓レッスンについて紹介します。

私たちは事前研修から SWY が始まるまでの約三ヶ月間、船上で行われるナショナル・プレゼンテーションのために練習を重ねてきました。

結果は大成功、そのあと外国参加青年からの反響の凄さに押されて自主

活動で和太鼓のレッスンをしよう決めました。といっても主催するのはそこまでハードルの高いものではなく、借りる物品と場所を押さえればほぼ終わりです。(ちなみに後半になればなるほど主催したい人が増えるのでやりたいことが決まっている人は前半にやるのがおすすめです)

本番、ほとんどの参加者は外国参加青年でした。特に英語に自信のあるメンバーは和太鼓チームにはいませんでしたが、太鼓の鼓動やリズムを通じ、言語の壁を超えてみんなで楽しむことができました。音楽は言葉を超えて仲を深めるのにとってもおすすめです。皆さんもぜひ音楽を使った自主活動をしてみてはいかがでしょうか。

村上 拓



5 平和構築と国際協力コース

紛争解決、平和構築、国際協力という複雑かつ多面的な要素を持つこれらのトピックの基礎を学ぶ。ディスカッションを通して国際機関がいかにして国家間や個人間の平和を促進し（あるいはそれに失敗し）ているかを議論する。



6 多文化共生コース

参加青年が多様性を受容し、自身が所属する地域社会で担うべき役割を再発見し、社会参画や政治参画に対してより積極的なアプローチをできるようになることを目指す。



多文化共生コースでは、各セッション英語という共通言語を用いてディスカッションだけでなく、ゲームやダンス、表情などを用い相手を理解し、その違いを尊重する大切さを学びました。特に印象的だった言葉は、「他者を受け入れるためにはまず自分が自分自身を受け入れていなければならない」ということです。英語力や高いスキルを持った他の参加青年と自分自身を自然と比べてしまい、落ち込むことが続いていた僕にとってこの言葉がとても響きました。そして、自分らしくていいんだと気づくことができた時、他者に対しさらに心を開くことができ、より深い関係を築くことができるのだと実感できました。(西田晃大)

7 地球環境と気候変動コース

地球環境の現状とそれにまつわる社会課題について、全体像を理解し、最終的には参加青年たちが変化の担い手として活躍するために必要なスキルや知識、表現力を見につけることを期待する。



現在の地球環境の現状や問題について広く学びました。ファシリテーターが一方向的にレクチャーするのではなく、ディスカッションやロールプレイを通して体験しながら知識を得る機会が多く、5回という時間があっという間に過ぎてしまいました。最も印象に残っているのは、交渉ゲームです。プレイヤーである私たちは世界各国の責任者として、経済の損得を考慮してCO2削減の条約に批准するか否かを交渉するというゲームです。私たちは普段日本の国民として環境問題について考えていますが、この交渉ゲームでは、違う国の立場になって発言をし、交渉を進めることで、いろんな角度から環境問題について考える良い機会となりました。(玉橋利沙)

委員会紹介

プログラムを円滑かつ、参加青年が主体的に進めるために、委員会活動があります。参加青年全員がどれか一つ委員会に所属して、研修の運営などのために活動します。委員会によって忙しさや仕事量に差はありますが、とてもやりがいがあります。

委員会紹介

- ・アドバイザーズ委員会
- ・All PY セミナー委員会
- ・アシスタント・グループ・リーダー委員会
- ・クラブ活動委員会
- ・イベント委員会
- ・ナショナル・プレゼンテーション委員会
- ・オリンピック・パラリンピックセミナー委員会
- ・Peer-Learning セミナー委員会

イベント委員会

堂前佳穂

イベント委員会は、メンバーをスポーツ&リクリエーションとサマリーフォーラム(SS)グループ、フェアウェルセレモニー&ディナーとキャビンチェンジ(FC)グループの2つに分けて活動しました。前年度の企画を参考にするというよりは、オリジナリティーを出すために一から作り上げることに重点を置いた為、乗船してOPYが加わってからの企画ではかなり時間に制限があったように思います。SSグループは、スポーツとサマリーフォーラムの企画運営をスムーズにこなしていました。FCグループは、創作力が必要だったため、最初から準備に追われていましたが、無事にキャビンチェンジとフェアウェルパーティーの任務を果たすことができました。人数の多い委員会で、みな和気藹々と取り組んでいました。



その他の クラブ活動 の例

- ・沖縄クラブ
- ・日本語クラブ
- ・よさこい
- ・メディテーション
- ・ヌビアンダンス
- ・ケニアカルチャークラブ
- ・ポルトガル語
- ・アラビア語
- ・手作りコスメ
- ・コーラス
- etc.



コーラス (英国)



手作りコスメ (フランス)



カポエラ (ブラジル)



ヌビアンダンス (エジプト)



沖縄クラブ (日本)



メディテーション (スリランカ)



よさこい (日本)

クラブ活動

クラブ活動では、言語や伝統のダンスなど、その国の文化・習慣を参加青年から教えてもらい、体験できる活動です。参加青年は誰でも主催者としてクラブ活動を運営する事ができます。主催者は1つ、それ以外の参加青年は1人2つのクラブを選んで所属し、最後には各クラブの成果を発表するエキシビションがあります。

書道 クラブを 主催して

私は書道クラブの主催者として活動しました。この活動を通して学んだことはいくつかありますが、1番印象的だったのは「言葉は文化を反映している」ことに気づいたことです。例えば書道の場合、「とめ」「はね」「はらい」といった技術がありますが、これを英語で説明しようとしても適切な表現を見つることができませんでした。しかし見本をやって見せると外国参加青年もすぐに理解してくれ、「言葉がなくても共有できることはある」と改めて気づかせてくれました。

自分自身の名前や好きな言葉を漢字で書くことで、喜ぶ顔が近くで見られて嬉しかったです。この機会を与えて下さったことに感謝しています。

松川 雅美



内側 まで知ること ができたクラブ 活動

私はブラジルのカポエラとニュージーランドのハカを選びました。カポエラはブラジルにある対人形式で行うダンスです。3拍子のリズムに合わせて攻撃側と退避側に分かれて交互に攻撃したり退避したりして、いかにも勝負をしているかのように見せるものです。攻撃は蹴りが中心で、退避はしゃがむ・側転などダイナミックに見せるものが多く、それらを一定のリズムと相手に合わせて踊るのは非常に難しかったです。カポエラはブラジルがポルトガルに占領されているときに生まれたものであることや複数種類あることなどが

学べて勉強にもなりました。また主催者も優しく丁寧に教えてくれたのでクラブ内の雰囲気も終始よかったです。ハカはラグビーW杯でオールブラックスがしているのを見ていたり、ニュージーランドのナショナル・プレゼンテーションでハカをやっているのを見て感動したりして、絶対これをしたいたいと思い参加しました。その声量・動作・歴史には感銘を受けました。教えてもらったのはカマテというものですが、それ以外にもマオリ語で自己紹介を行ったり、ハカではないマオリ語の歌を教わったりして、マオリ語やニュージーランドの素晴らしい魅力について知ることができました。そしてそれを11か国の参加青年と共に学び、披露して自分が感動を受けたように感動を与えることができました。今後この感銘を世界青年の船に参加していない方に伝えることができたらなと思っています。そのため毎日思い出しながらやっています。

平井 聡一郎



アシスタント・グループ・リーダー委員会

田中宏果

アシスタント・グループ・リーダー委員会は各参加国のアシスタント・ナショナル・リーダー2名から成る委員会でした。船上生活中に浮上した問題を互いに共有、解決策を考え出し実行するのが主な活動内容で、いわば風紀委員のような存在でした。委員会内で挙がった問題の多くは、プログラム中の遅刻や規則違反などモラルを問うもので、それぞれの文化や価値観の違いを尊重し、配慮した上で改善策を話し合いました。デリゲーションの代表として参加する委員会ミーティングでは、自分の意見が自国のデリゲーション全体の意見として捉えられることもあり、常に責任感と緊張感がありました。



オリンピック・パラリンピック委員会

岡崎千波

私の所属はオリンピック・パラリンピック委員会でした。私は特に委員会のミーティング中に、リーダーシップ力を学びました。日本人だけのミーティングと違い、意見が途切れなく出てきて何かに対する決定も半ば強制的にしなければ終わらない状況でした。四方八方から意見が飛び交うことは刺激的な反面、このような場でリーダーシップをとることの難しさを感じていました。しかし、委員長を務めていた日本参加青年は、いつも明るく司会をしていき、みんなの意見も踏まえた上で必要に合わせて決断をし、メンバーの信頼を得ていました。彼の話し方や姿勢、自信は近くで見ている大きな学びになりました。ここで学んだことを生かして私も良いチームが作れるリーダーになりたいです。



セミナー Seminar

参加青年主体で行われるセミナーは大きく3つに分けられます。どれも全員参加のセミナーです。より良いセミナーを作りあげようと、主催する委員会によって様々な工夫がなされました。

All PY セミナー

01

All PY セミナー委員会が企画及び運営をし、全参加青年 (All PY) が参加するセミナーです。全3回あり、それぞれ異なるテーマのセミナーが行われました。

①「リーダーシップ」

自分なりのリーダーシップを探すためのワークショップ

②「異文化理解」

非言語コミュニケーションを体験
異文化理解に知見のある参加青年をゲストに迎えるパネルディスカッション

③「社会問題」

いくつかの社会問題を挙げ、参加青年の関心に基づいてグループ分けをし、自由に議論

私は、委員会内の議論をまとめ、セミナー運営の全体統括をする役割を担っていました。セミナーを受講するのではなく主催する立場でしたが、セミナーを創り上げる過程でたくさんの方の事を学び、お互いに信頼関係を築くことができたと感じています。世界11か国から様々なバックグラウンドを持つメンバーをまとめる上で、当初は国籍の違いによって、日本人同士ではあり得ないような困難があるのではと不安に思っていました。しかし、実際に活動をするや国籍による差異よりも共通点の方が多く感じられました。例えば、セミナーの準備が進むにつれてメンバーのモチベーションが高まっていくなど、日本でチーム活動をしていくときと似た光景が多々見られました。この経験から、これから国籍や民族の異なる人と交流したり、協働したりする際は、国籍の違いによる先入観に囚われず、ひとりの人間として向き合っていこうと考えています。 今里 優香



オリンピック・パラリンピックセミナー

02

今年度は東京五輪が開催される予定だったことから、オリンピック・パラリンピックセミナーがありました。

「参加青年全員にオリンピックだけでなく、パラリンピックについて考える機会を提供する」ことを目的と設定し、セミナーを2回、計5時間実施しました。初回は知識を楽しみながら得る事をテーマに、前半は各参加国の代表的なオリンピック・パラリンピアンプレゼンテーションを外国参加青年に行ってもらい、後半はレターグループ対抗のクイズ大会を企画。2回目は実際に議論をすることをテーマとし、様々な議題を提示し、積極的に自分の意見を述べてもらいました。ディスカッションの議題は「貴方はオリンピック・パラリンピックを自分の国で開催したいか」「オリンピック・パラリンピックは本当に世界を一つにしているか」など各個人で意見が異なるであろう議題を選んだことで、非常に議論は活発になり、大変盛り上がりました。セミナーを実施する上で特に工夫した点はアイキャッチとゲーム性。入場シーンで船内で撮った聖火リレーの動画を流すことで一気に注目を集め、合間に身体を動かしながら楽しくオリンピック・パラリンピックについて学べるゲームを入れることで飽きさせないようにしていました。結果的に当初の目的を達成するセミナーができたと考えています。



井戸 健太

Peer-Learning セミナー

03

参加青年が決めた自由なテーマで開けるセミナーです。毎回60分のセミナー2コマか、120分のセミナー1コマを選んで参加します。どれも興味のあるセミナーばかりで、どれを聞きに行くか毎回悩みます。自分の関心分野や、世界に発信したいことを発信できるともとてもいい機会です。

「知られざる沖縄」のセミナーを通じて

運天 萌子

私は沖縄出身の二人と共に、沖縄の琉球文化、沖縄戦、基地問題についてセミナーを行いました。セミナー名には、観光地としてのキラキラした沖縄だけではなく、深い部分を伝えたいという想いを込めました。祖母がひめゆり部隊の一員だった事から、沖縄の歴史を私達や、私達よりも若い世代に伝えていかなければならないという想いが以前からあり、今回セミナーを行う側として参加しました。セミナーの目的や、どこまで伝えるか、など船に乗る前の3ヶ月間、何度も話し合いを重ねました。メンバーはそれぞれ、神奈川、京都、沖縄、と遠く離れた地におり、また、学生と社会人という立場が違う中で話し合いを重ねる事は簡単な事ではありませんでした。しかしセミナーを終えて感じた事は、本当にやってよかった、という気持ちに尽きます。日本人の中でも話題にしやすいテーマであり、正直なところ、意見や質問に対してはあまり期待をしていませんでした。しかしいざ質問タイムに入ると、多くの参加青年達が手をあげてくれ、時間内に終わる事ができない程でした。日本から遠く離れた国に住んでいる青年達が、自分事のように一緒に考え、意見してくれ、涙が止まりませんでした。まさに、世界とつながった感覚をもたらしてくれた経験でした。これは世界11カ国の青年達と一緒に介したこの事業だからこそ、実現出来た事だと思います。あの時の事を思い出すと、今でも目頭が熱くなってしまいます。



その他の Peer-Learning セミナーの例

- *パブリックスピーキング
- *私のアイデンティティは何か
- *フェミニズム
- *日本における性教育
- *ブラジルの歴史
- *イスラムとは何か
- *平和教育
- *CSRとは何か
- *SWYがもし100人の村だったら etc.

